

基礎調査の結果を踏まえた課題と改定の方向性について

1. 基礎調査の全体像

計画の改定にあたっては、現行計画のレビュー結果を基に、計画のさらなる改善を図るとともに、文京区の環境を取り巻く現状に合わせた計画とするため、基礎調査を実施した。

基礎調査及び課題のまとめ、改定に向けた方向性の検討の流れと、各調査の概要は、以下のとおりである。

- (1) 基礎調査として以下の5つの調査を実施し、区の環境を取り巻く状況を整理
- (2) 基礎調査結果をもとに、計画改定にあたっての現状の課題を整理
- (3) 計画改定に向けた方向性を検討

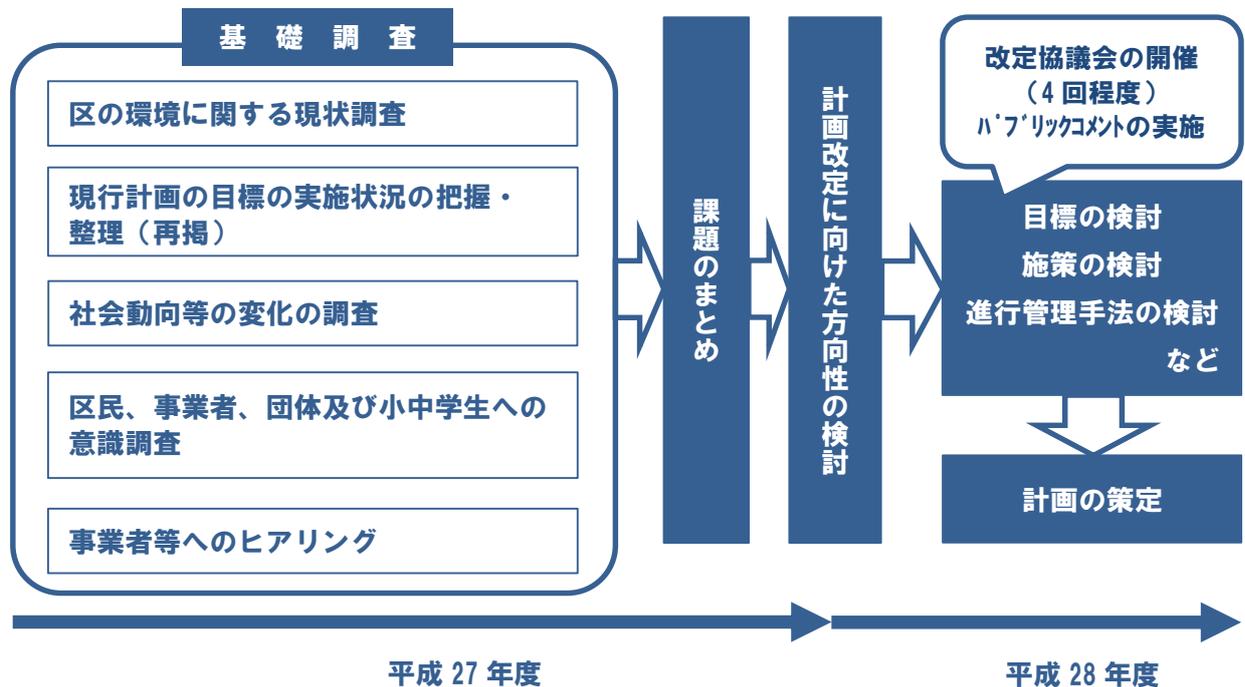


図 1.1 基礎調査、評価及び課題のまとめ、改定に向けた方向性の検討の流れ

表 1.1 各調査の概要

調査名	概要
区の環境に関する現状調査	区の環境に関する現状を把握するための文献調査を実施
現行計画の目標の実施状況の把握・整理（再掲）	現行計画の「個別目標」に係る進捗状況などを把握するための庁内アンケートを実施
社会動向等の変化の調査	文京区の政策課題、環境行政や環境問題に関する国内外の動向を把握するための文献調査を実施
区民、事業者、団体及び小中学生への意識調査	区民、事業者、団体及び小中学生に対し、環境配慮行動の実施状況や希望する文京区の環境、行政に期待する施策などを把握するためのアンケートを実施
事業者等へのヒアリング	代表的な事業者の環境配慮行動の実施状況や行政に期待する施策を把握するためのヒアリングを実施

2. 基礎調査の項目

基礎調査の項目には、現行計画策定時に調査を行った際の「社会環境」、「生活環境」、「自然環境」、「人文・歴史環境」の4項目に加え、国や東京都の計画を参考に「地球環境」及び「その他」を加え、調査を実施した。

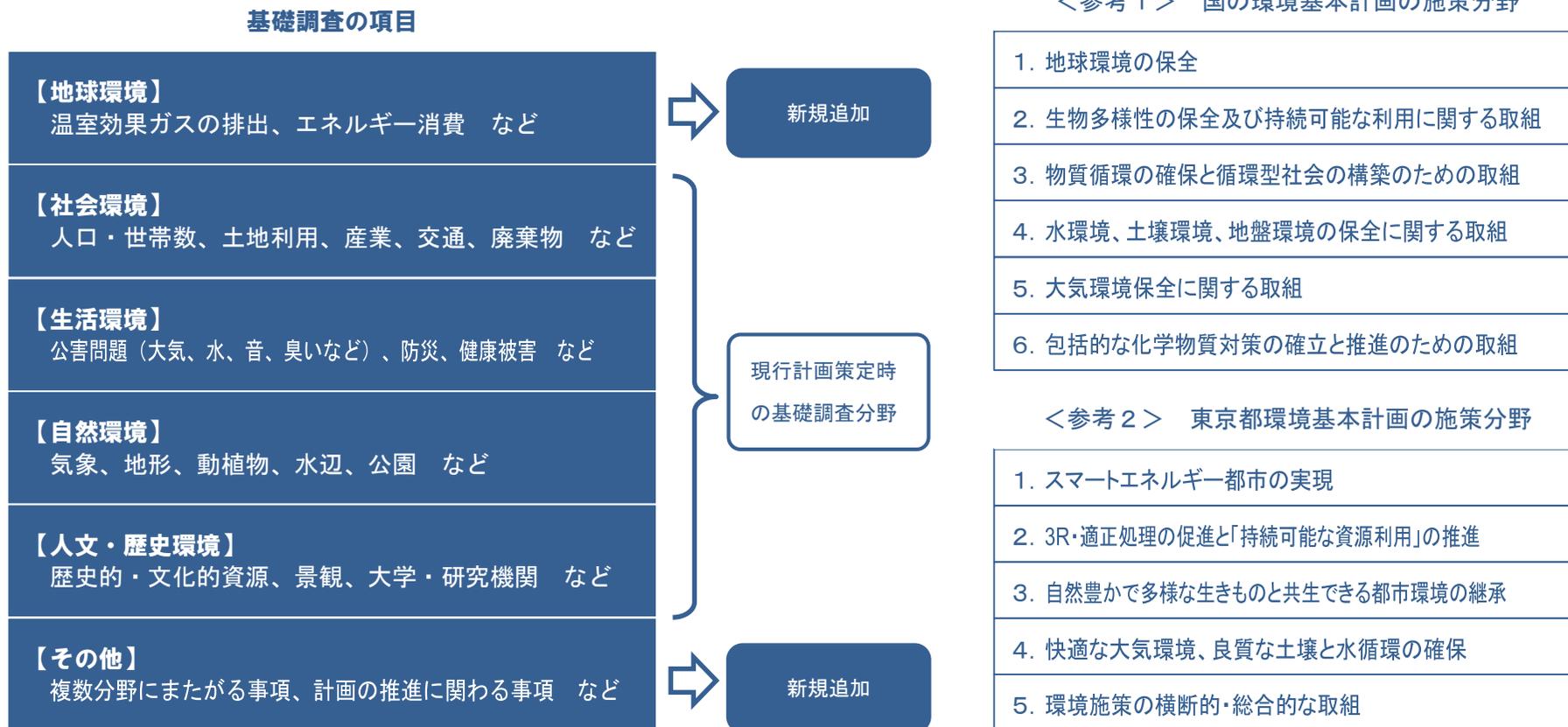


図 2.1 基礎調査の範囲の整理

3. 基礎調査結果の概要と課題のまとめ

現行計画策定時の課題	基礎調査結果の概要					課題のまとめ
	区の環境の現状	現行計画の目標の実施等状況（再掲）	社会動向等の変化	区民、事業者、団体及び小中学生の意識	事業者等ヒアリング結果による取組状況・要望	
地球環境 ■ エネルギーを大切に、効率的なエネルギー利用へと改善する* ※ 現行計画策定当時は「生活環境」として分類	<ul style="list-style-type: none"> ● 温室効果ガス排出量は増加傾向であるが、エネルギー消費量は減少傾向である 資料第3号 p.2 ● 再生可能エネルギーの導入状況は小規模太陽光発電において進んでいる 資料第3号 p.3 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地球温暖化対策地域推進計画と連携し、区民・事業者の省エネルギー対策などの施策を実施している 資料第3号 p.26 ● 温室効果ガスの算定方法が変更されたため、排出削減目標の達成状況は評価できていない 資料第3号 p.26 	<ul style="list-style-type: none"> ● パリ協定を踏まえた国の地球温暖化対策の新たな計画との整合が必要 資料第3号 p.37 ● 東日本大震災以降の新たなエネルギー政策との連携が必要 資料第3号 p.37 ● 技術革新、価格、関連する行政の動向を踏まえた省エネ・再エネ設備・機器の普及啓発が必要 資料第3号 p.41～43 	<ul style="list-style-type: none"> ● 区民の省エネルギーに配慮した行動は、節電、節水、自転車及び公共交通機関の利用など、いずれの行動も実行率が高い 参考資料1 p.12 ● 事業者が希望する区の未来の環境では、大規模では低炭素社会が、中小規模では快適・安全が最も支持が高い 参考資料1 p.67, 101 ● 事業者が区に期待する環境施策では、大規模では省エネルギー機器・省エネルギー型建築物の普及促進が、中小規模ではみどり・水辺の保全への支持が高い 参考資料1 p.72, 107 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境関連の取組を行う組織の設置・運営等により、東日本大震災直後の節電規制を契機とした節電行動が普及 資料第3号 p.48 	<ul style="list-style-type: none"> ● 温室効果ガスの排出量が増加しており、対策が急務です。区でできる対策としては、引き続き省エネルギーや再生可能エネルギーの取組が求められます。 ● 区民・事業者の低炭素社会実現に向けた取組状況や意識は他分野より比較的高く、環境配慮行動が一定程度浸透していることから、区民・事業者の行動を継続させていくことが必要です。 ● 国の最新のエネルギー施策や技術動向を踏まえると、新たな省エネ・再エネ設備・機器の導入の可能性が考えられます。事業者においても、機器の普及啓発の推進への要望が高くなっていることから、新たな省エネ・再エネ設備・機器の導入により、無理なく賢くエネルギー消費量の削減を実現することが必要となります。
社会環境 ■ 環境に配慮したきめ細かい土地利用を誘導する ■ 都市施設の整備方法を改善し、環境への負荷を軽減する ■ 誰もが快適に暮らし続けられる住環境を育む	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口・世帯数が増加傾向、世帯人員の減少、高齢化が進行 資料第3号 p.6 ● 主に卸売・小売業、印刷・同関連事業等の産業が集積 資料第3号 p.5～6 ● 公共交通を中心とした移動手段の充実 資料第3号 p.7～8 ● ごみ収集量が減少傾向、資源収集量は近年横ばい 資料第3号 p.10 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般廃棄物処理基本計画と連携し、リサイクル・清掃関連の施策は、計画通り実施している 資料第3号 p.26 ● ごみ・リサイクル関連指標の達成状況も良好である 資料第3号 p.26 	<ul style="list-style-type: none"> ● 循環型社会の実現に向け、既存の2Rの取組の強化が必要 資料第3号 p.38 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資源の循環利用に配慮した行動において、区民はごみの分別、マイバッグ持参は比較的执行率が高いが、リユースは比較的执行率が低い 参考資料1 p.14 ● 事業者は、廃棄物削減への取組やリサイクルの実行率が比較的高いが、グリーン購入の実行率は比較的低い 参考資料1 p.63, 81 	<ul style="list-style-type: none"> ● 区内事業者等による「文京エコ・リサイクルフェア」への積極的な参加 資料第3号 p.48 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口・世帯数が増加傾向にあることから、世帯人数の減少や高齢化の進行など、家族構成の変化に応じた環境保全の取組が必要となります。 ● 事業者は小売業を中心としたサービス業が多く、製造業では印刷・製本業等が集積しており、グリーン購入などより多くの区内事業者に普及可能でかつ効果的な環境施策が求められます。 ● ごみ排出量や資源回収量は順調に推移してきましたが、近年の人口・世帯数の増加傾向を踏まえると、継続した取組が必要となります。 ● 区民へのリユースに対するさらなる啓発が必要です。
生活環境 ■ 空気をきれいにし、騒音・振動を減らすなど健康に暮らせる環境へと改善する ■ 物を大切にし、くり返し使う社会へと改善・転換する	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺他区も含めて大気・水質等の環境項目は環境基準を概ね達成しているが、一部未達成の地点が存在 資料第3号 p.11～12 ● 災害などに備えた避難所等が区内各所に存在 資料第3号 p.13 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大気汚染、自動車交通騒音等の対策は実施しているが、一部未達成の目標がある 資料第3号 p.25 	<ul style="list-style-type: none"> ● 策定当時と比較して大きな変化はないが、引き続き既存の取組の実施が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中小規模事業者の事業活動に伴う公害対策は、大規模事業者と比較して実行率が低い 参考資料1 p.65, 83 ● 中小規模事業者や区民・小中学生が希望する区の未来の環境では、快適・安全社会が最も支持が高い 参考資料1 p.37, 101, 125, 131 	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時に避難できる場所の提供等において協力を検討している事業者等が存在 資料第3号 p.48 ● 周辺道路の安全対策（自転車対策）への要望等がある 資料第3号 p.48 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大気や水質等において、対策の実施状況は概ね良好ですが、一部の項目や地点で環境基準を未達成の状態となっており、改善が必要です。 ● 区民や中小規模事業者、小中学生では快適・安全社会の実現を望む意見が最も多く、身近な生活環境の改善による区民の安心・安全性の向上が求められます。 ● 公害対策については、広域的な把握・対策が求められることから、関連自治体などと連携した情報収集や対策が必要となります。 ● 中小規模事業者に対する公害対策の強化についての啓発が必要となります。

現行計画策定時の課題		基礎調査結果の概要				課題のまとめ	
		区の実況	現行計画の目標の実施等状況（再掲）	社会動向等の変化	区民、事業者、団体及び小中学生の意識		事業者等ヒアリング結果による取組状況・要望
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の緑の減少をくい止め、さらに、新たに緑を育む 神田川の水質をさらに改善するとともに、自然の水循環を回復する 緑・水・土・鳥・魚・昆虫などのつくる生態系を守り、育てる 自然とふれあう場や機会を育む 	<ul style="list-style-type: none"> 真夏日や熱帯夜の日数が増加傾向である 資料第3号 p.14 坂や崖が多く、起伏に富んだ地形である 資料第3号 p.15 区内には一定量のまとまった緑地がある 資料第3号 p.19～20 	<ul style="list-style-type: none"> 緑の保全・創出に関して計画通りに施策を実施している 資料第3号 p.25 調査の継続実施等一部未達成な目標がある 資料第3号 p.25 	<ul style="list-style-type: none"> 生態系ネットワークの形成に向け、区内のさまざまな水辺やみどりを点から線へとつなげ、ネットワーク化することが必要 資料第3号 p.39 地方公共団体における「生物多様性地域戦略」の策定・実施などの積極的な役割を果たすことが期待されている 資料第3号 p.35 	<ul style="list-style-type: none"> 区民の生態系への配慮やみどりを大切にしている行動は比較的高いが、川や水辺との関わりを大切にしている行動は比較的低い 参考資料1 p.15 区民・中小規模事業者・団体が区に期待する環境施策では、みどり・水辺の保全への支持が高い 参考資料1 p.54, 107, 118 	<ul style="list-style-type: none"> 目立った取組は見られない 	<ul style="list-style-type: none"> 区内では、真夏日や熱帯夜の日数が増加に代表されるように地球温暖化に起因するとみられる気候の変化が少しずつみられるため、想定される気候変動に備えた対策が必要です。 区内では、一定量のまとまったみどりが複数存在しており、都市における憩いの場であり、かつ歴史的価値も高いことから保全していくことが必要です。 生物多様性の保全に関する地方公共団体の役割が明確化されており、対応を検討する必要があります。 区内の水辺やみどりをつなげてネットワーク化することで、生物多様性の保全にも役立てることが重要となります。
	<ul style="list-style-type: none"> 歴史と文化を伝える街並みを守り、尊重してまちづくりを行う 区民、事業者、区が連携・協働するしくみを育み、環境を守り、創る 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化のまちである（文化財の立地や文化人の輩出など） 資料第3号 p.21 景観に配慮した街並み形成に取り組んでいる 資料第3号 p.22 学術・研究機関が多数立地している 資料第3号 p.23 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的・文化的な資源や景観の継承を実施している 資料第3号 p.25 	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想の将来都市像である「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」の実現に向け、区の特徴である人文・歴史環境の継承が重要である 資料第3号 p.28 	<ul style="list-style-type: none"> 区民の地域の歴史・文化に接している割合は高いが、地域の歴史・文化の伝承に対する実行率は比較的低い 参考資料1 p.17 	<ul style="list-style-type: none"> 目立った取組は見られない 	<ul style="list-style-type: none"> 文京区は多くの文化財を抱え、かつ多くの文化人を輩出している歴史・文化のまちであり、後世に継承していくことが必要です。 基本構想の将来都市像「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」の実現を環境面から支えていく必要があります。 区内に多数立地する学術・研究機関との連携・協働は、これらの歴史・文化を継承するために重要な手段となります。 地域の歴史・文化の伝承に対する実行率が相対的に低いことから、さらなる啓発が必要となります。
	その他 (調査対象外)	(調査対象外)	<ul style="list-style-type: none"> 行動を普及させるためのしくみづくりに関する目標を計画通り実施している 資料第3号 p.26 	<ul style="list-style-type: none"> 「低炭素」「循環」「自然共生」の各分野の統合的な対策が必要 資料第3号 p.31 2020年のオリンピック・パラリンピック大会とその後を見据え、先進的な取組を掲げる東京都との連携が必要 資料第3号 p.40 	<ul style="list-style-type: none"> 区民・事業者・団体・行政の役割について、比較的大規模事業者が自身の役割の重要性を認識しているのに対し、区民・団体・中小規模事業者は行政の役割が重要であるとする傾向がある 参考資料1 p.41, 69, 104, 115 	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮行動の成功事例の紹介や、教材の開発などを検討する事業者等が存在 資料第3号 p.48 区内事業者等が同時に参加できる環境保全イベントの企画を期待する事業者等が存在 資料第3号 p.48 	<ul style="list-style-type: none"> 本計画と環境関連個別計画との役割分担が不明確であることから進行管理方法が確立されていないため、環境関連個別計画との連携・整合・役割分担の明確化が必要です。 国や東京都では新たな環境基本計画を策定しており、各分野の統合的な対策、国や東京都の施策などの動向との整合の考慮が必要です。 区民・事業者・団体の各主体において、それぞれ重要な役割を果たすべき主体の認識が異なることから、各主体の役割を明確にし、連携して環境保全に取り組める推進体制の構築が必要となります。

4. 計画改定に向けた方向性の検討

基礎調査の主な結果

課題の整理

区 の 環 境 の 現 状	地球環境	● 温室効果ガス排出量の増加、エネルギー消費量の減少
	社会環境	● 人口・世帯数の増加、世帯人員の減少、高齢化の進行 ● 住宅地の割合が高く、小売業、印刷・製本業等を中心とした産業構造
	生活環境	● 公害対策の必要性 ● 災害などへの備えの対策の重要性
	自然環境	● まとまったみどりが豊富
	人文・歴史環境	● 歴史・文化のまち ● 学術・研究機関が多く立地
現 行 計 画 の 目 標 の 実 施 状 況 (再 掲)	地球環境	● 温室効果ガスの排出削減目標は、算定方法の変更により評価不可。個別計画において改善
	社会環境	● リサイクル・清掃関連の施策を計画通り実施・達成
	生活環境	● 大気汚染、自動車交通騒音等の対策は実施しているが、一部未達成の目標がある
	自然環境	● 調査の継続実施等一部未達成な目標がある
	人文・歴史環境	● 歴史的・文化的な資源や景観の継承を実施
	その他	● 計画推進のしくみづくりを計画通り実施
社 会 動 向 等 の 変 化	国の政策	● パリ協定を踏まえた国の地球温暖化対策の新たな計画との整合の必要性 ● 「低炭素」「循環」「自然共生」の各分野の統合的な対策の必要性
	東京都の政策	● 2020年オリンピック・パラリンピック大会とその後を見据えた連携の必要性
	区の政策	● 基本構想の将来都市像「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」の実現の必要性
団 体 及 び 小 中 学 生 の 意 識	区民、事業者、 取組状況	● 中小規模事業者の公害対策や区民のリユースなど、一部の行動の実行率が低い
	希望する区 の 未 来 の 環 境	● 概ね快適・安全社会の支持が高いが、大規模事業者では低炭素社会の支持が高い
	区に期待する 環 境 施 策	● 概ねみどり・水辺の保全への期待が高いが、大規模事業者では省エネルギー機器・省エネルギー型建築物の普及促進への期待が高い
事 業 者 等 の 取 組 状 況	環境配慮活動の 現 状	● 推進組織を設置等により、節電をはじめとした環境配慮行動に取り組んでいる
	区内事業者として 今 後 実 施 し た い こ と	● 成功事例の紹介や、教材の開発などを検討する事業者等が存在する
	区内の環境施策・事業 に 期 待 す る こ と	● 事業者等が同時に参加できる環境保全イベントの企画や、区内の安全性向上などに対する期待がある

地球環境

- 区民・事業者の低炭素社会実現に向けた行動を継続させていくことが必要
- 新たな省エネ・再エネ設備・機器の導入により、無理なく賢くエネルギー消費量の削減を実現することが必要

社会環境

- 近年の世帯人数の減少や高齢化の進行を踏まえ、家族構成の変化に応じた環境保全の取組が必要
- より多くの区内事業者が普及可能でかつ効果的な環境施策が必要

生活環境

- 身近な生活環境の改善による区民の安心・安全性の向上が必要
- 公害対策については、関連自治体などと連携した情報収集や対策が必要

自然環境

- 想定される気候変動に備えた対策が必要
- 区内のまとまったみどりの保全が必要
- 地方公共団体における生物多様性の保全対策が必要
- 水辺やみどりのネットワーク化が必要

人文・歴史環境

- 区の特徴である歴史・文化の継承が必要
- 基本構想の将来都市像「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」の実現を環境面から支えていくことが必要
- 区内に多数立地する学術・研究機関との連携・協働が重要

その他

- ● ●
- 各分野の統合的な対策、国や東京都の施策などの動向との整合が必要
環境関連個別計画との連携・整合・役割分担の明確化が必要
各主体の役割を明確にし、連携して環境保全に取り組める推進体制の構築が必要

改定の考え方

改定計画の位置づけ・性格

反映方法の例

1. 「文京区基本構想」の将来都市像「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」の実現を、環境面で支える計画とします。

区民・事業者の住みやすさ、働きやすさの維持・向上に配慮した施策の検討

区内に存在する自然や歴史・文化、区民・事業者の行動など、既存のストックを活用した施策の検討

環境に関連する国内外の新たな動向を踏まえた施策の検討

2. 分野や地域、主体の枠を超えて連携して取り組む計画とします。

重要かつ特徴的な施策の、分野横断的・主体間連携による実施を検討

3. 各主体（区民・事業者・団体・区）の行動を促す計画とします。

各主体の役割・行動を示した「行動指針」の作成による計画の普及啓発の検討

4. 環境関連個別計画との連携・整合を図った計画とします。

本計画では環境関連個別計画の理念を掲げ、具体的な数値目標等の進行管理は個別計画が担うなど、役割分担の明確化を検討

環境都市像、取組の方向性について

現行計画

文京区基本構想

改定計画

【基本理念】
 ①環境の重要な要素である地域文化を、より豊かなものにします
 ②環境問題への取り組みは、地球的規模で考え、地域の協働により進めます
 ③環境の保全・創造には、区民が健康で安全・快適に暮らせるように施策を体系化し、総合的に取り組みます

【望ましい環境像】
 緑と文化を育み継承する、健康で安全な環境都市 ぶんきょう

- 【基本目標及び個別目標】**
- 基本目標 1. 自然の命と歴史・文化の息吹を大切にすまち**
- 個別目標① 大きな緑を核とし、小さな緑を増やし、つなげる
 - 個別目標② 鳥や昆虫の棲める場所を守り、増やす
 - 個別目標③ 豊かな水辺をつくり、自然の水循環を保全する
 - 個別目標④ 歴史・文化を継承し、新たな息吹につなげる
- 基本目標 2. 健康で快適に暮らせるまち**
- 個別目標⑤ 大気汚染を軽減し、健康な暮らしを守る
 - 個別目標⑥ 騒音を減らし、静けさの感じられる場所を増やす
 - 個別目標⑦ 誰もが安全で快適に過ごせる美しい街並みをつくる
- 基本目標 3. 限られた資源を大切にすまち**
- 個別目標⑧ 物をくり返し使い、ごみを出さない循環の輪をつくる
 - 個別目標⑨ 水やエネルギーを大切に使う
- 基本目標 4. 未来の世代に、美しい地球を継承すまち**
- 個別目標⑩ 地域から地球環境問題に取り組む
 - 個別目標⑪ 新たな環境問題に取り組む
- 基本目標 5. みんなで環境を守り、育てるまち**
- 個別目標⑫ 気づき、感性を育むためのしくみをつくる
 - 個別目標⑬ 学ぶためのしくみをつくる
 - 個別目標⑭ 行動するためのしくみをつくる

【将来都市像】
 歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」
ぶんきょう

- 【基本理念・望ましい環境像】**
- 現行計画の基本理念、望ましい環境像は普遍的な考え方であり、かつ基本構想の将来都市像の考え方にも概ね合致する
 - 時代のすう勢に合致し、かつ分かりやすい表現が求められる
- 内容は現行計画を踏襲しつつ、文言については要検討

- 基礎調査結果を踏まえ、目標体系の組み替えや追加・統合・修正を検討
- 区民・事業者に対する分かりやすさの向上を検討（イラスト化等）

【基本理念】
 ①環境の重要な要素である地域文化を、より豊かなものにします
 ②環境問題への取り組みは、地球的規模で考え、地域の協働により進めます
 ③環境の保全・創造には、区民が健康で安全・快適に暮らせるように施策を体系化し、総合的に取り組みます

【望ましい環境像】
 緑と文化を育み継承する、健康で安全な環境都市 ぶんきょう

- 【基本目標及び個別目標（案）】** 注）イラストはあくまでもイメージであり、今後の検討で変更される可能性があります。
- 基本目標（仮称）自然共生・歴史・文化**
 生物多様性の保全、水辺の保全、緑の創出 歴史・文化の継承など 
- 基本目標（仮称）快適・安全**
 公害対策、景観保全、地球温暖化への適応策 など 
- 基本目標（仮称）循環**
 発生抑制、再使用、リサイクル など 
- 基本目標（仮称）低炭素**
 省エネルギー、再生可能エネルギー など 
- 基本目標（仮称）連携・基盤づくり**
 普及啓発、人材育成、推進体制の構築 など 